

特別企画講座

予言獣とは何？

講師 西山 克 京都教育大学名誉教授

コロナ騒動で一躍有名になったアマビエ、顔は人間のようで首から下は魚、一見人魚のようです。江戸時代に熊本に現れ、「我はアマビエと申す者なり、当年より6年の間は、諸国で豊作が続く。だが疫病もはやる。だから我の姿を絵に書き写し、人々に早々に見せよ」といったとか。似たようなものにアマビコがありますが、こちらは顔だけで体は毛むくじゃら、顔から3本の足が生えているので気味が悪い、どう見てもアマビエの方がかわいいのですがアマビエはアマビコの写し間違いではないかとの説もあります。よく見るとアマビエも足が3本あるのです。こんな風に未来を予言する妖怪を予言獣といい、その姿を描いたものは厄除けになるといわれています。一方瑞獣といって瑞兆があると現れる架空の動物もいます。

今回は吉凶の際に姿をあらわす様々なモノとそれらにすがって物事を良い方向に運ぼうとする人々の願いについてのお話です。

日 時 12月15日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円
場 所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

神崎宣武塾長 特別講座

(民俗学者・神崎研究室室長)

旅する神々⑧ 仮面の来訪神—異界からの異相の神々は何をもたらすか

平成30年12月、「来訪神 仮面・仮装の神々」がユネスコの無形文化遺産に記載(登録)されました。

こしきりま 畷島のトシドンやあが 男鹿のナマハゲ、能登のアマメハギなど10件です。

「来訪神」とは、歴史的には新しい呼称で、多くは鬼の姿で家々を巡ります。それは、厄災を払い福德を招く小正月を中心とした行事です。伊勢地方でいうと、「蘇民将来」の伝説とも重なります。招かれざる神々、さて、どこから旅してくるのでしょうか。

日 時 2月17日(水) 18:30～20:00 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円
場 所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

『「日本」に出会う』シリーズ 第17回

日本各地から地方色が失われています。そして、季節の風情や味覚までも。つまり、日本文化を構成する多様性が失われつつあるのです。何をもって「日本らしさ」とかというのも議論がわかるところですが、五十鈴塾が注目する「日本らしさ」に神崎塾長と出会いに行ってみたくと思います。回数を重ねると、次代に繋げなければならない何かが見えてくることを期待して、歩いて・見て・話しあってみましょう。

「西国三十三所巡り」その2～醍醐寺と城南宮～

近畿4県と岐阜県に点在する観音霊場を巡る西国三十三所巡り、今回は京都市伏見の醍醐寺を訪れます。

豊臣秀吉の醍醐の花見で有名なお寺で世界遺産に登録されています。

桜の季節が一番いいのですが、それはとても無理なので、静かな冬に訪れて心ゆくまでお参りをしたいと思います。

国宝の金堂、五重塔はもとより唐門と表書院が国宝、庭園が特別名勝の三宝院も拝観します。御本尊は薬師如来、観音様は準胝観世音菩薩、御開帳の時期が違いますので拝観はできないのが残念です。せっかく京都まできたので梅で有名な近くの城南宮に行きます。

くにのこたちのみこと やちほこのかみ おきななららしひのみこと 国常立尊、八千矛神、息長帯日売尊を祀り、しだれ梅と椿が有名なお宮で「方除の大社」といわれ、引越、工事、旅行の神として尊崇されています。神苑には150本のしだれ梅、300本の椿が咲き競いそれはそれは見事です。

日 時 2月18日(木) 8:00～18:00 参加費 会員 17,000円 ビジター 18,000円(バス代・昼食代・拝観料・保険料含む)
集合場所 7:55に五十鈴川駅集合 定員 15名限定